



コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 発明の時代へようこそ！ - 空き地は宝物 - 西村 浩さん

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

発明の時代へようこそ！ - 空き地は宝物 -

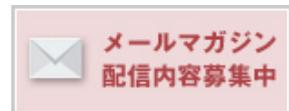
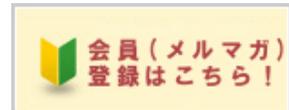


西村 浩 (にしむら ひろし)

1967年佐賀県生まれ / 東京大学工学部土木工学科卒業、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、設計事務所勤務を経て1999年ワークヴィジョンズ設立。同社代表取締役。

主な計画・作品に、大分都心南北軸構想、佐賀市街なか再生計画、函館市中心市街地トータルデザイン、岩見沢複合駅舎、佐賀「わいわい!!コンテナ」、鳥羽海辺のプロムナード「カモメの散歩道」、長崎水辺の森公園橋梁群など。

主な受賞歴に、日本建築学会賞、土木学会デザイン賞、グッドデザイン賞大賞、BCS賞、ブルネル賞、アルカシア建築賞、公共建築賞 他多数。



🔍 もっと詳しく検索する

1.わいわい!! コンテナ

中心市街地の空店舗・空地対策として、西村さんが取り組まれた「わいわい!! コンテナ」プロジェクトが注目を集めています。「わいわい!! コンテナ」はどのようにして取り組まれることになったのですか？

もう7年ほど前になりますが、きっかけは佐賀新聞東京支店の記者から取材を受けたことです。

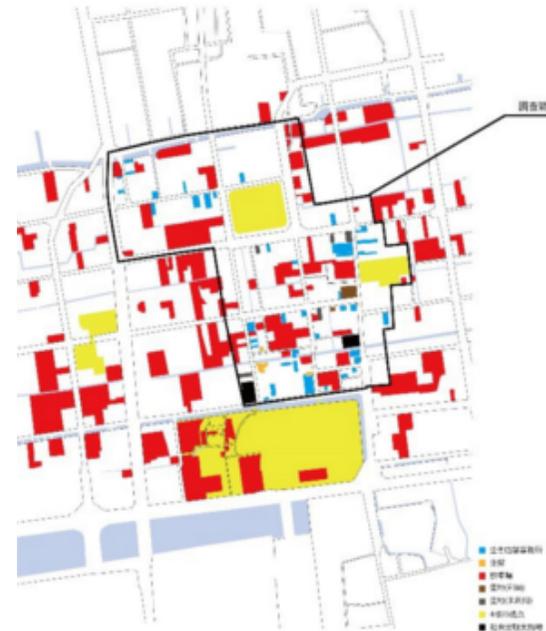
私が佐賀市出身で、記事の最後に書かれた「生まれ育った佐賀の街が寂しいのでなんとかしたい」という私のコメントを見た市民の方から、「ぜひ話を聞いて欲しい」と連絡をもらいました。地元だったので訪問したところ、それが縁で佐賀市に定期的に通うようになり、市民有志の皆さんと集まって佐賀のまちづくりについて語り合ってきたところ、一年ほど経ったころでしょうか、その集まりで出会った佐賀市役所の方から、街なかをなんとかして欲しいと依頼されたのです。

実際、佐賀市の街なかには空店舗・空地だらけ。自分が子どもの頃に過ごしていた街なかは、昔のような賑わいは無くなってしまっていて、びっくりしてしまいました。

同時に、街なかの賑わいを再生するためにはこれまでと同じことをしていてもだめだと思いました。もちろん行政も何もやらなかったわけではなく、活性化に向けた取組を行ってきたと思います。それでも思うような結果が出なかったのでしょうか。社会の情勢や価値観がこれまでと変わってしまったのであれば、これと向きあわなければなりません。拡大の論理が成り立たない人口減少の局面では、街なかには空き地ができるのは当然のこと。これをカブくで、埋めようとしてもだめだと思いました。——ではどうするのか。

考え抜いて思いついたのが「空地にこそ価値がある」ということを実証する取組です。それが、社会実験「わいわい!! コンテナ」プロジェクトです。アーケードに面した街なかの空地で「芝生のある原っぱ」を作り出し、コンテナを使って雑誌やまんがや絵本のある交流スペース「空地リビング」を作り出しました。コンテナを使ったのは、移動可能で、再利用でき、社会実験のツールとして最良だと思った

佐賀市中心部の駐車場・空地・空店舗・空事務所



からです。原っぱは、ドラえもんの中で子どもたちが遊んでいるドカンがある広場のイメージです。公園ではありません。公園にしてしまうと規制が増えてしまうので、敢えて自由に使うことができる芝生の「原っぱ」にしたのです。

ただ、よく誤解される方がいるのですが、どこでも空地に芝生を貼ってコンテナを置けばうまくいくのかというと、そんな簡単なことではありません。

もともと、「わいわい!! コンテナ」は、コンテナの設置による周辺への社会的な影響（連鎖）を検証することをねらいとして取り組んだものです。ですから、単に奇抜な取組を行って人集めに成功したという短期的な現象だけでなく、どのような連鎖的な影響が生まれたかに注目していただきたいと考えています。

つまり連鎖的な影響が生まれれば、コンテナで無くても良いのです。全国各地から、コンテナを置いてみたいという相談を多数受けているのですが、コンテナありきでは本末転倒です。そもそもの目的に立ち返って考えることが大切だと思います。

わいわい!! コンテナ 1



わいわい!! コンテナ 2



1 2 3 4

登録日 2016年3月29日 (火曜) 00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省 (法人番号 4000012090001)
主催/経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局/株式会社 野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



- イベント・メルマガ
- 研修・オープン会議
- 学習教材・統計
- コラム・事例紹介
- タウンプロデューサー
- まちづくり掲示板
- 政策関連情報
- このサイトについて

コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 発明の時代へようこそ！ - 空き地は宝物 -

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

発明の時代へようこそ！ - 空き地は宝物 -

形だけにとらわれてはいけません。「連鎖的な影響」についてもう少し説明していただけますか。

わいわい!! コンテナは、これまでに2箇所で開催されました。2011年6月から2012年1月末まで8ヶ月間にわたり実施した「わいわい!! コンテナ1」は、既に役目を終えて民間事業者に引き取られており、現在、跡地は市が「緑地広場」として整備をしています。わいわい!! コンテナ2は2012年6月に設置されたので、5年目になります。社会実験といいながら5年間も設置されているので、一体いつまで実験しているのか? という質問も議会では出ているようです。(笑)

空き地に芝生を張って コンテナを設置すると、これまでほとんど人通りが無かったところにも本当に人が集まり始めました。社会実験を開始した最初の8ヶ月間で15,000人、現在では年間6万9千人もの人が来ています。暫くすると周辺の建物がリノベーションされはじめ、店舗やオフィスが立地するようになりました。着実に周辺に変化が生じています。こういう連鎖的な変化こそ、社会実験で目指したかったことなのです。

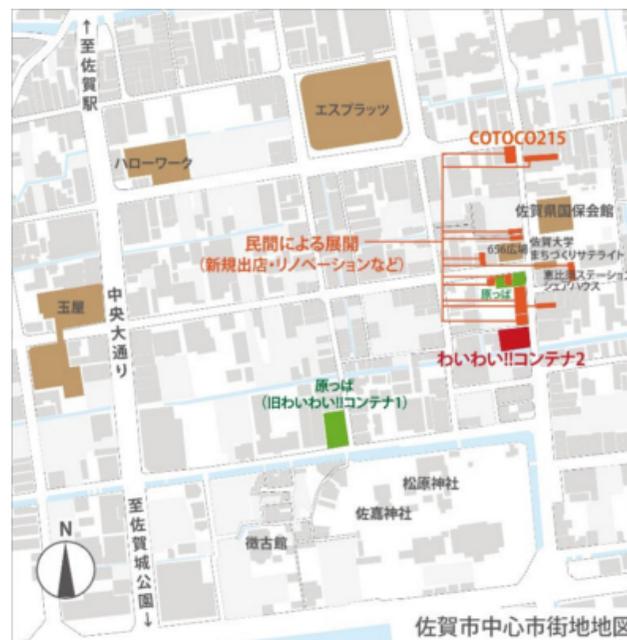
また、短い間ではありますが、わいわい!! コンテナが2つ存在していた時期がありました。この時はコンテナ1とコンテナ2を回遊する人たちがでてきました。それで分かったことは、適切な距離の範囲に興味を惹くものがあれば歩い

街なかの変化 - 連鎖状況 -



もっと詳しく検索する

て回るということです。佐賀市は、他の地方都市と同じように、自動車でいけるところしか行こうとしない人が多いのです。でも2つコンテナを設置したら回遊する人が出てきたことで、面白いものがあれば人は歩くということを確認できました。



200m×200mぐらいのコンパクトなエリアに面白いものを集積させることができれば、「まち」は変わっていくと思っています。

「わいわい!!コンテナ」設置による街なかの変化





**連鎖による影響によって移住者やUターン者も増えるでしょうか。
また、どんな産業や機能をターゲットにしていますか。**

重要だと思っているのはUターンではありません。需要がないのでUターンは難しい時代になってきていると感じています。実現したいのは、Uターンではなく、東京と佐賀の両方に仕事と暮らしの拠点を置く人を増やすということです。私自身、2013年に佐賀にCOTOCO SAGA 215というカフェを併設したシェアードワークプレイスを開設しました。安い航空運賃のLCC等も利用して、地方と東京の2地域で暮らし、働く人を増やせばいいなと考えています。

とはいえ、今のままではプレイヤーが足りません。それで始めたのが「Saga Round Table」です。これは東京で佐賀に縁のある方々に声をかけてワークヴィジョンズのオフィス（COTOCO TOKYO）に集ってもらい、佐賀について語り合い、佐賀を応援しようという取組です。仲間と一緒に昨年6月と今年2月に開催してきました。このトークライブは、佐賀にも会場を設け、インターネットを使って相互中継してまさに東京と佐賀をつないで開催しています。

これからも開催を続けて、佐賀の可能性に目を向けて、東京だけでなく佐賀との2拠点で暮らしたり、働く人が少しずつ増えればいいなと思っています。ターゲットとしてはIT系が有望だと思いますが、デザイナーや広告代理店など多様な業種が街なかに集積すればよいと思います。街なかで働く人が増えれば、そこで交流する人が増え、街の魅力も向上し、賑わいが生まれます。その結果として商業の再生にもつながると思うからです。

できれば市役所も街なかに立地するとよい機能のひとつです。しかもアーケードに接して横倒しにして配置したい。まちづくり関係の部署だけでもよいので、アーケードを利用して移動できるような仕事

場を作り出すのです。活用できる空間はすでにたくさんあるのですから新たに作る必要はないと思います。

Saga Round Table

ひとがつながる。しごとがつながる。

Saga Round Table vol.2

Saga Round Table は、佐賀のまちづくり、新しい産業に向けて取り組み続けている佐賀出身のふたりの建築家、馬場正幸と西村 浩が発起人となって、佐賀で生まれた「佐賀で育った」佐賀で暮らしたことがある「佐賀が好き」佐賀が未来になる……など、佐賀に縁のある有識者の方々と佐賀をつなげるプラットフォームです。

「ひと」がつながる Saga Round Table × 「しごと」がつながる SAGASO
第2回目は、佐賀のクリエイターと大都市圏の仕事をコーディネーターがつなぐお仕事マッチングサービス「SAGASO」とのコラボレートによる「**東京と佐賀の新しいつながり方**」をテーマに東京と佐賀の会場を中継でつなぎながら皆さんと語り合いたいと思います。

●ナビゲーター

 高崎 健一郎 1964年 佐賀県生まれ 株式会社 SAGE ジャパン 株式会社 SAGE フアクトリー 代表取締役	 山崎 亨 1970年 佐賀県生まれ アールケニア株式会社 代表取締役 エイゴアルライズ株式会社 代表取締役	 馬場 正幸 1968年 佐賀県生まれ Open A Ltd. 代表取締役	 西村 浩 1967年 佐賀県生まれ 株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役 マダソンコトバCOTOCO215 代表
---	---	---	---

@Saga @Tokyo

2/24(水)
18:30 開場
19:00 スタート
★ 要参加申込

主催 | 佐賀市
運営 | NPO 法人まちづくり機構 コマニテさが / 株式会社ワークヴィジョンズ / 株式会社オープン・エー

@Tokyo
会場 | COTOCO TOKYO (株式会社ワークヴィジョンズ レンタルスペース)
東京都品川区東品川 1-5-10-8 / tel:03-5715-2761
会費 | ¥4,000 (送料別途) ※定員 50名
お問合せ・参加申込 | mail: info@workvisions.co.jp (田中)

@Saga
会場 | もみつきリカフェ かねくり亭 株式会社 FWM ファクトリー
佐賀市昭和 4-14 (田久重家住宅) / tel:0952-37-5883
会費 | ¥3,000 (送料別途) ※定員 50名
お問合せ・参加申込 | mail: info215@co-co.jp (田中)

【東京会場】



【佐賀会場】



1 2 3 4

登録日 2016年3月29日 (火曜) 00:00

經濟產業省（法人番号 4000012090001）

主催／經濟產業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 発明の時代へようこそ！ - 空き地は宝物 -

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

発明の時代へようこそ！ - 空き地は宝物 -

2. まちづくりにおける「発明」

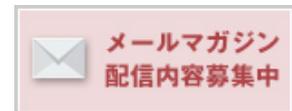
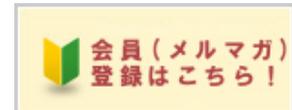
「横倒しの役所とは考えてもみませんでした。そういえば、最近、西村さんは、「発明の時代へようこそ！」という言葉を使われています。西村さんが「発明」という言葉にこめている思いについて説明していただけませんか？」

佐賀市の取組でもお話しましたが、人口減少をはじめとして、過去の成功例が通用しない時代になったと思っています。人口が減少していく社会をこれまで経験したことがある人はほとんどいません。だからまちづくりでも20世紀の価値観や既存の成功例をそのまま真似してもだめだと思います。右肩上がりの時代にやっていたことの延長線上で仕事をすると必ず失敗します。

今は、新しい成功モデルを探すアプローチが重要です。そういう新しいチャレンジを私は「発明」と呼んでいます。

そこで大切なのが地域の「お宝」です。佐賀市の空地もそうですが、地方にもいろいろな資源が眠っていて、少し見方を変えることによってそれが新たな価値を生み出すことができるわけです。重要なのは新しい見方を適用することによって、まちのお宝を編集することだと考えています。

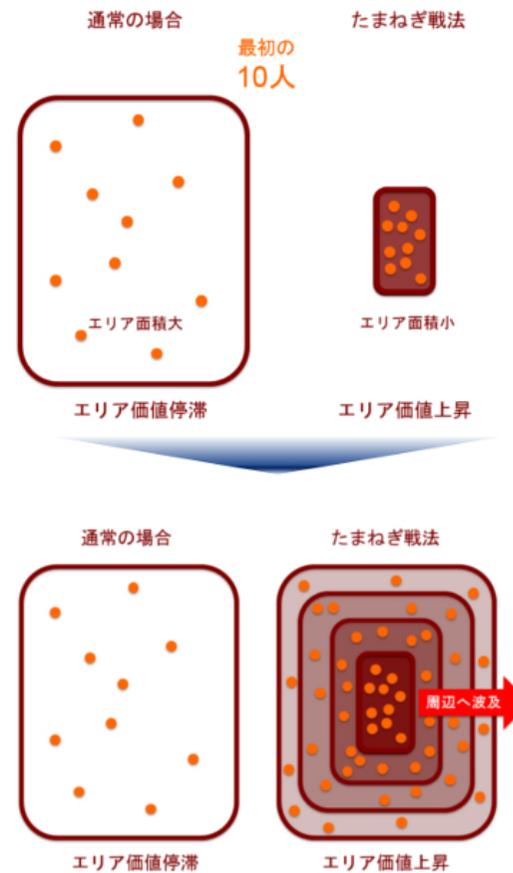
少しずつ成功を積み上げる
- たまねぎ戦略 -



もっと詳しく検索する

生みの苦しみはもちろんあります。今は将来が見えにくい時代なので、大規模な取組は危険だと思います。小さな失敗から学び、少しずつ成功を積み上げていくことが大切だと思います。ですから100億円の事業をひとつやるより、100万円の事業を1万件やるべきだとよく言っています。

小規模な取組みのよいところは多様な地域の個性を活かせることです。100億円の事業はそう簡単にはできないので結局は事例を参照した全国画一を助長することにはしたくないと思います。小さな取組で地域のお宝をできるだけ活かし、最小限のリスクのなかで多様な取組が展開されることが大切だと考えています。



新しい考え方を実現するにはいろいろ障害もあるのではありませんか。

それは確かです。私も本当にいつもボコボコにされています。大胆なことを言えば言うだけ叩かれますよね。たいていの場合、年配の方々は「俺達はこういう風にやってきた」と、今のやり方を変えたくない場合がほとんどです。

そういう時は、迷惑はかけないので邪魔せずに自分達にやらせていただきたいというお願いをしています。私たちの様子を関係者はたいてい見えています。そうして成功し始めると閉ざされていた障子を開け始めてくれます。無理な合意形成はしないで機が熟するのを待つということも重要です。



できれば自然に合意形成してもらいたいです。だから、どうすれば関係者みんながメリットを享受できるようになるかいつも一生懸命に考えています。参加者全員がメリットを感じられるようにしないと、実現しないし、たとえ実現しても続かないと思っています。

それにしても、佐賀の場合に救われたのは、通常、新しいことに反対することの多い行政がものすごく柔軟だったことです。普通の市町村では、街なかにコンテナをおくなんてことはできないですよ。そんな自治体は知りません。

でも佐賀市では、行政がむしろ前向きに対応してくれました。ずいぶん助けられました。実は、最近になって本音を言ってくれるようになった部長が定年を前に言われたことがあります。「本当のことをいうと、どうなるかとても心配でしょうがなかった」と。心配でも、そんなことは感じさせずに「どんどんやりなさい」と背中を押して下さったことに本当に感謝しています。

1 2 3 4

登録日 2016年3月29日（火曜）00:00



[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 発明の時代へようこそ！ - 空き地は宝物 -

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

発明の時代へようこそ！ - 空き地は宝物 -

失敗しないようにするために心がけていることはありますか。

プロジェクトに失敗するのは、やめてしまうからだと考えることです。失敗しないためには、いったん着手したら止めなければよいのです。一度始めたら成功するまでやり続ける。これなら絶対に失敗しませんよね。（笑）

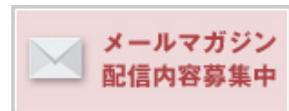
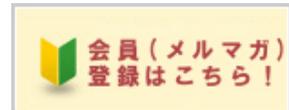
もちろん、そのためにプロジェクトをスタートするまでには、内容もどのタイミングでスタートを切ればよいのかを含めて、ものすごく考え、悩みぬきます。やり始めると辛いこともたくさんあります。でもいったんはじめたら、成功するまで止めない。

3. これからやってみたいこと

最後にこれからやってみたいことをお聞かせいただけますか。

佐賀市の街なかを昔のように1階が職場、2階に人が住まう職住近接のまちにしたいと思っています。

昔は、子どもたちが道を走って遊んでいたのですが、どこから来たかという、街なかに暮らしていたのです。暮らしている子どもたちが遊んで、それが賑わいを呼んでいたわけです。街なかにこうした昔の状況を取り戻すべきだと考えています。



もっと詳しく検索する

先ほども述べたように、例えば縦に伸びた役所の建物を街なかで横倒しにして設置したら本当にいいですね。アーケードもあるので、街なかにはいろいろな部署のオフィスがあっても移動しやすいのではないのでしょうか。

かつての需要に満ち溢れていて土地が不足していた時代に建物が上へ上へと延びていたのは分かりますが、現在は需要のない時代です。今の佐賀市では土地が余っています。それなら高層にこだわる必要はないはず。低層型のまちをめざすべきだと考えます。

また、できれば取組みに子どもたちを巻き込みたいと思っています。

まちづくりは世代から世代へとつないでいくものです。子どもたちが街なかからいなくなってしまうと、将来的にまちがなくなってしまう。だから子どもたちを巻き込み、子どもどもたちで溢れるようなまちを作りたい。例えば、「3歳児のための子ども屋台」なんていうことをやってみたいのです。

まちは人の暮らしがあって成り立っています。これからも人と人との関係を考え抜いて、まだまだ発明し続けたいと思います。



 シェアする Tweet



1 2 3 4

登録日 2016年3月29日（火曜）00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.